令和８年度　第３回

杉並区区政モニターアンケート
認知症について

集計結果報告書

SUGINAMI CITY

令和８年９月実施

杉並区総務部区政相談課

〈認知症について〉

調査の概要

1　調査の目的

杉並区では、令和5年6月に施行された「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」の趣旨を踏まえ、「杉並区認知症施策推進計画」を策定し、認知症になってからも希望を持って安心して暮らし続けることができるまちの実現を目指して、認知症施策を総合的に推進しています。

本アンケートは、10代から80代以上の幅広い世代を対象に、認知症への理解、認知症の人やその家族への支援・相談に関する考え方などについて把握することを目的として実施するものです。また、地域社会における共生に関する意識や認知症に関する情報ニーズ等を調査し、その結果を認知症になってからも安心して暮らせる地域づくりを推進するための基礎資料として活用します。

2　調査期間　　令和8年9月1日～令和8年9月18日

3　対象者（区政モニター）　　199 人

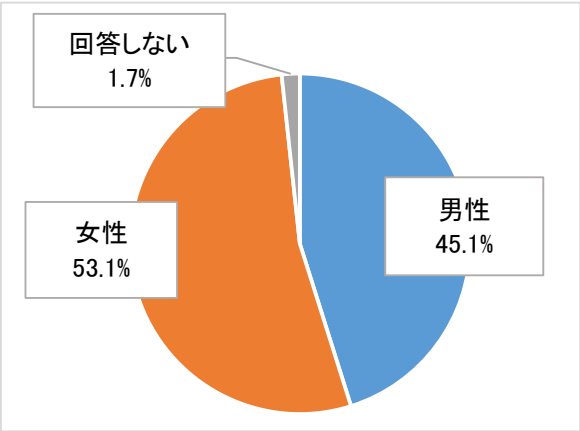
4　回答者数　　175 人　　回答率 87.9%　※各設問の回答者数は表右上にnで表示

5　回答者構成

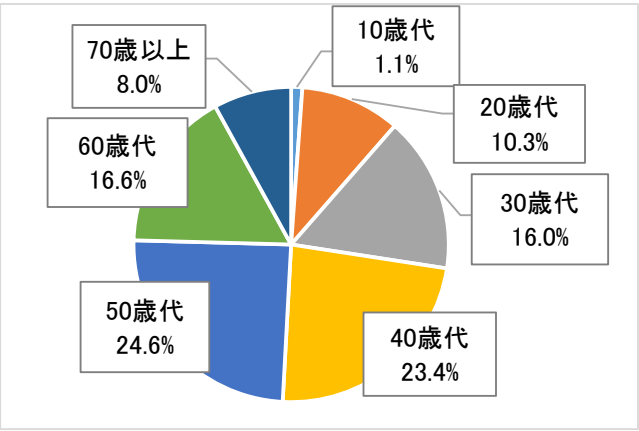
〈年代別構成〉　　単位：人

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	合計	割合
男性	0	8	10	15	23	15	8	**79**	**45.1%**
女性	2	10	17	25	20	14	5	**93**	**53.1%**
回答しない	0	0	1	1	0	0	1	**3**	**1.7%**
人数	**2**	**18**	**28**	**41**	**43**	**29**	**14**	175	100%
割合	**1.1%**	**10.3%**	**16.0%**	**23.4%**	**24.6%**	**16.6%**	**8.0%**	100%	

〈性別〉



〈年代別構成〉



◆基本事項についてお聞きします。

問1　あなたの性別をお答えください。

問2　あなたの年齢をお答えください。

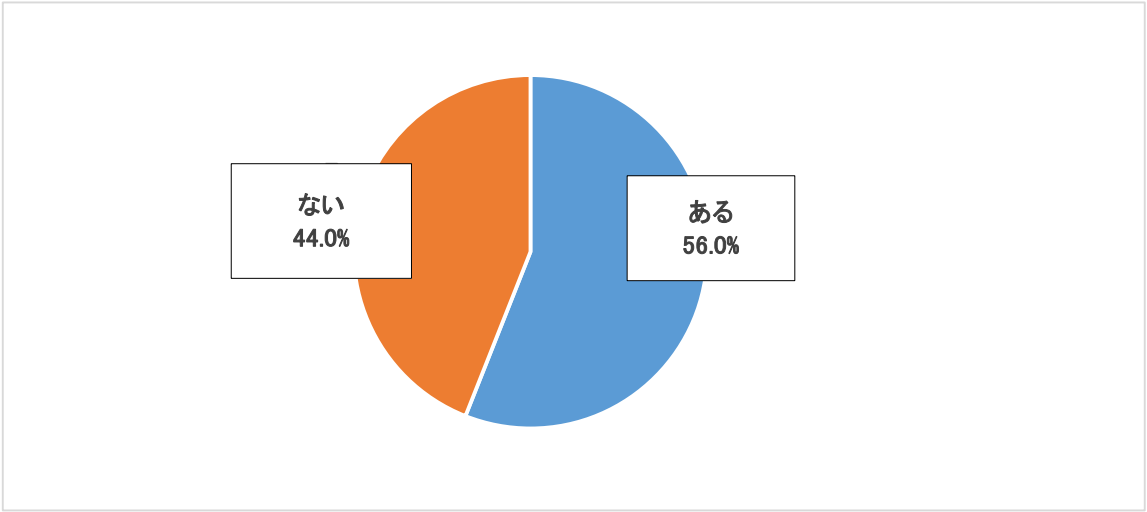
※問1～問2の結果については、上記『調査の概要　「5　回答者構成」』のとおり

◆ 認知症の人との関わり

問3　あなたは今までに認知症の人と接したことがありますか。なおご自身が認知症であると診断された場合には、「ある」を選択してください。（回答は1つ）必須

n= 175

	全体		10･20代	30･40代	50･60代	70歳以上
ある	98	56.0%	8	35	45	10
ない	77	44.0%	12	34	27	4
合　　計	175	100%	20	69	72	14

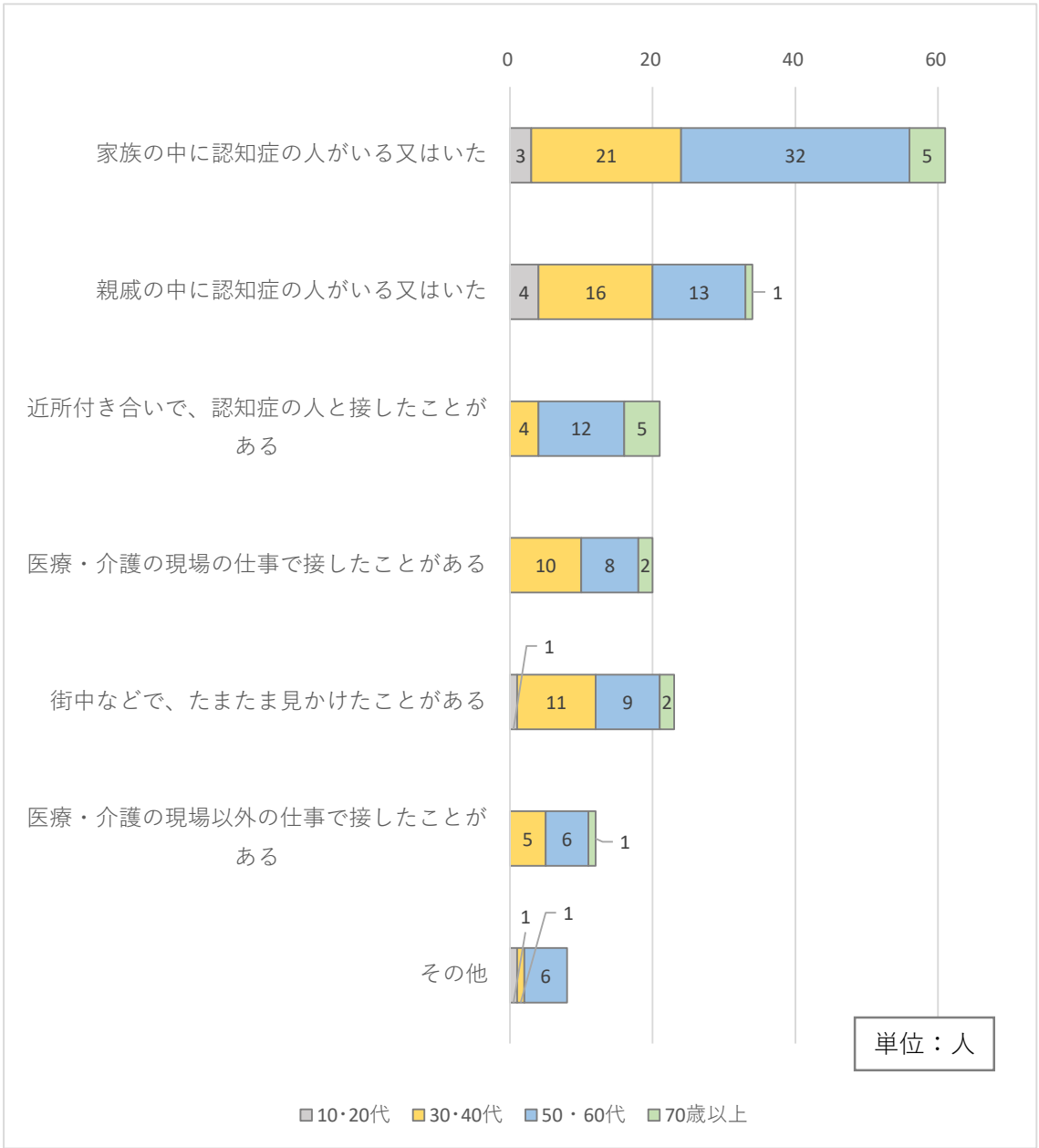


問4　（問3で「ある」と回答した方にお伺いします）経験したことがあるものを下記の中からあげてください。なお、ご自身が認知症であると診断された場合には、「家族の中に認知症の人がいる又はいた」を必ず選択してください。（回答はいくつでも）必須

n= 98

	全体		10･20代	30･40代	50･60代	70歳以上
家族の中に認知症の人がいる又はいた	61	62.2%	3	21	32	5
親戚の中に認知症の人がいる又はいた	34	34.7%	4	16	13	1
近所付き合いで、認知症の人と接したことがある	21	21.4%	0	4	12	5
医療・介護の現場の仕事で接したことがある	20	20.4%	0	10	8	2
街中などで、たまたま見かけたことがある	23	23.5%	1	11	9	2
医療・介護の現場以外の仕事で接したことがある	12	12.2%	0	5	6	1
その他	8	8.2%	1	1	6	0

その他・・・
・知り合いに認知症の人がいた。
・認知症支援員でご自宅に伺っていた。
・介護施設の下見に行った際、そのような方が多くいた。
・認知症の方の成年後見人をしている。
・市民活動や信頼関係のある交流のなかで接したことがある。
・父の同窓生が一人で職場に訪ねてきた。
・アルバイト中、お客様としてご来店され接客した際。

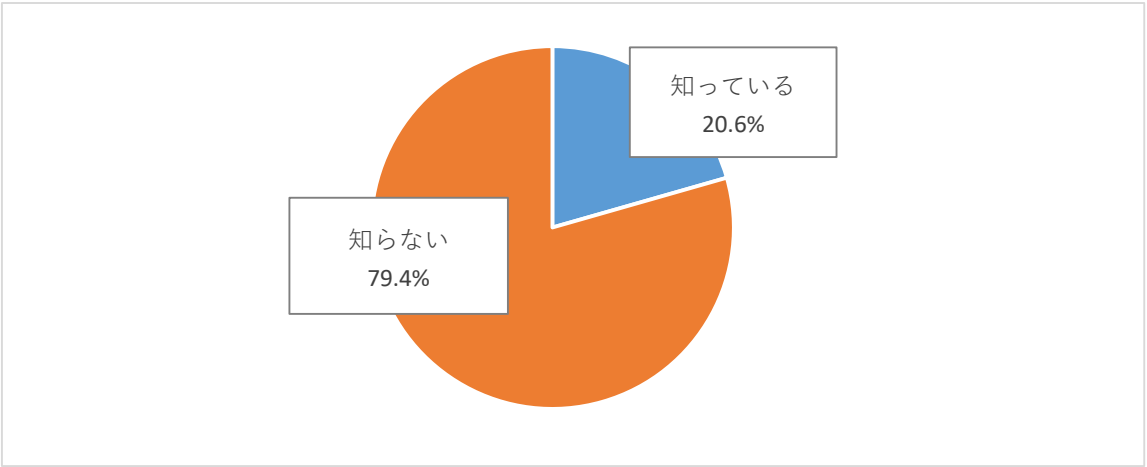


◆　認知症に関する理解・共生社会に関する意識について

問5　認知症基本法に示されている、「新しい認知症観」について知っていますか。（回答は1つ）※新しい認知症観とは：認知症になってからも住み慣れた地域で仲間と共に、希望を持って自分らしく暮らすことができるという考え方です。 必須

n= 175

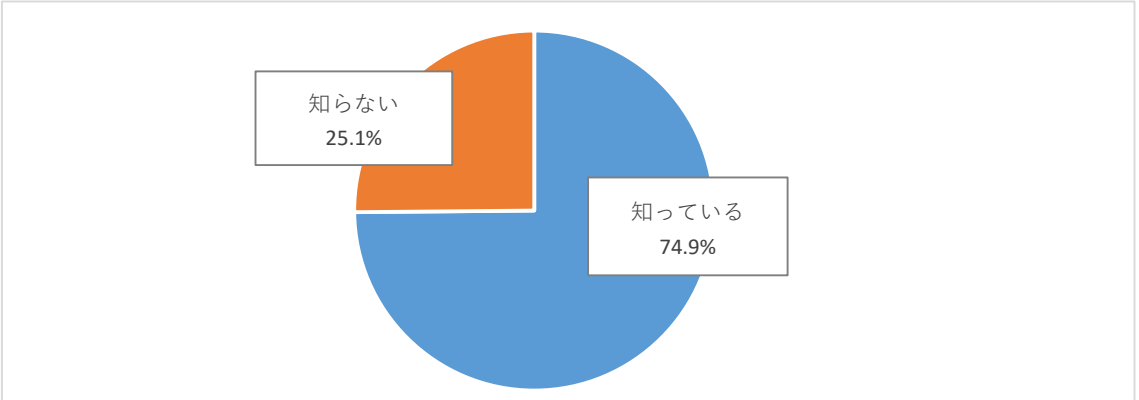
	全体		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
知っている	36	20.6%	0	10	24	2
知らない	139	79.4%	20	59	48	12
合　　計	**175**	**100%**	**20**	**69**	**72**	**14**



問6　認知症は、周囲の人の接し方や関わり方によって、本人の不安や混乱が和らぎ、症状の軽減につながることがあることを知っていますか。（回答は1つ） 必須

n= 175

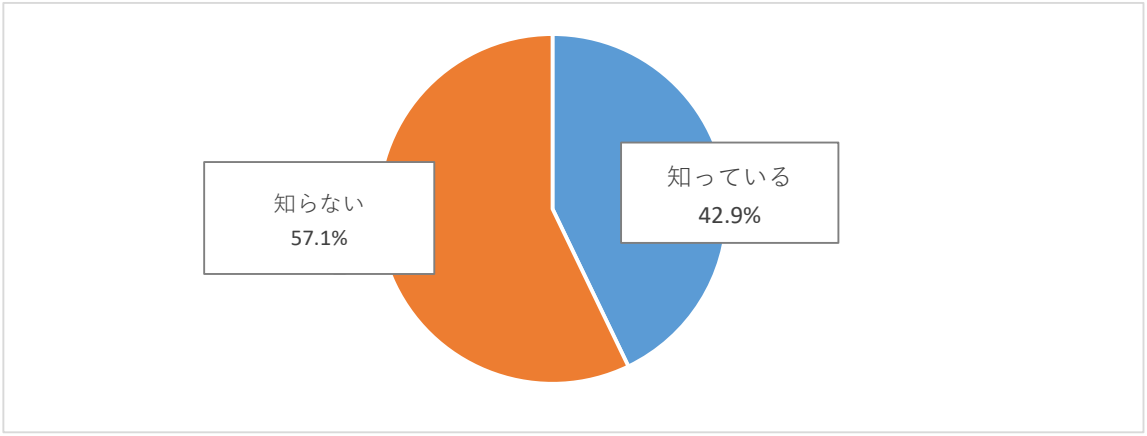
	全体		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
知っている	131	74.9%	14	47	61	9
知らない	44	25.1%	6	22	11	5
合　　計	**175**	**100%**	**20**	**69**	**72**	**14**



問7　MCI(軽度認知障害)について知っていますか。(回答は1つ)※MCI(軽度認知障害)とは、認知機能低下の自覚があるものの、日常生活は問題なく送ることができている状態の事です。1年で約5～15%の人が認知症に進む一方、約16～41%の人は認知機能が戻る可能性があるとされています。必須

n= 175

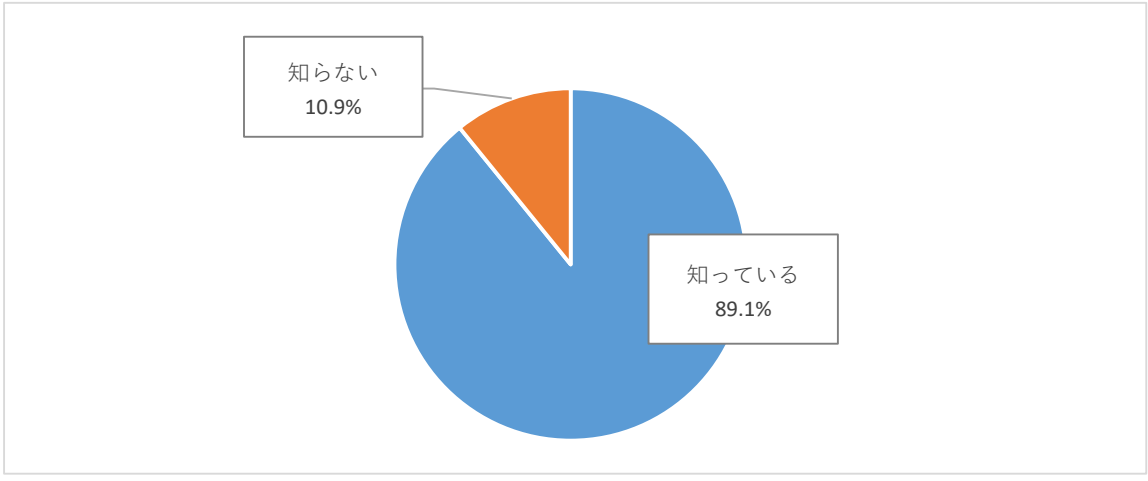
	全体		10･20代	30･40代	50･60代	70歳以上
知っている	75	42.9%	4	26	37	8
知らない	100	57.1%	16	43	35	6
合　　計	**175**	**100%**	**20**	**69**	**72**	**14**



問8　若年性認知症について知っていますか。(回答は1つ)※若年性認知症とは65歳未満で発症する認知症です。必須

n= 175

	全体		10･20代	30･40代	50･60代	70歳以上
知っている	156	89.1%	15	63	65	13
知らない	19	10.9%	5	6	7	1
合　　計	**175**	**100%**	**20**	**69**	**72**	**14**

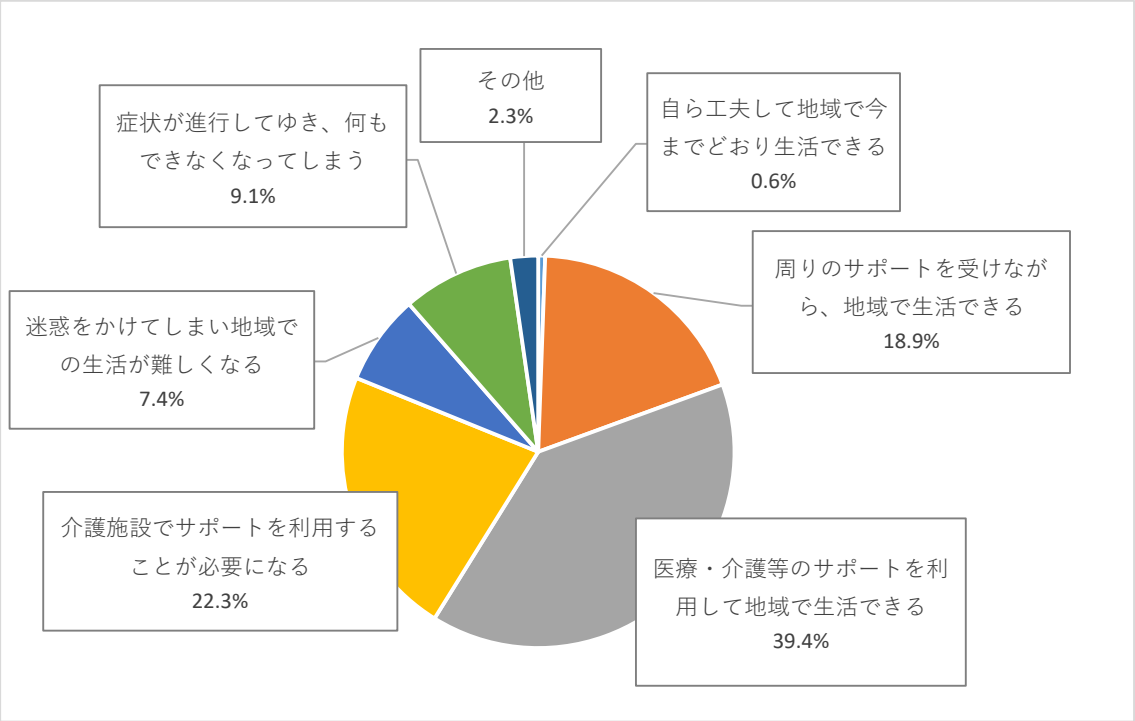


問９　あなたは認知症に対してどのようなイメージを持っていますか。あなたが思うイメージに最も近いものをお答えください。（回答は1つ）必須

n= 175

	全体		10･20代	30･40代	50･60代	70歳以上
自ら工夫して地域で今までどおり生活できる	1	0.6%	1	0	0	0
周りのサポートを受けながら、地域で生活できる	33	18.9%	2	9	19	3
医療･介護等のサポートを利用して地域で生活できる	69	39.4%	7	29	27	6
介護施設でサポートを利用することが必要になる	39	22.3%	3	18	13	5
迷惑をかけてしまい地域での生活が難しくなる	13	7.4%	3	6	4	0
症状が進行してゆき、何もできなくなってしまう	16	9.1%	4	7	5	0
その他	4	2.3%	0	0	4	0
合　計	**175**	**100%**	**20**	**69**	**72**	**14**

その他･･･
･状況に応じて、いずれかもしくは組み合わせで対応する。
･ご本人の家族や生活状況、認知症の進行度によってご本人を尊重したその時々の対応が必要と考えております。
･ケースバイケースである為ひとつには絞れない。
･適切な周りの理解やサポートがあれば、医療･介護等のサポートを利用しながら、可能な限りその人らしく地域で生活できる。

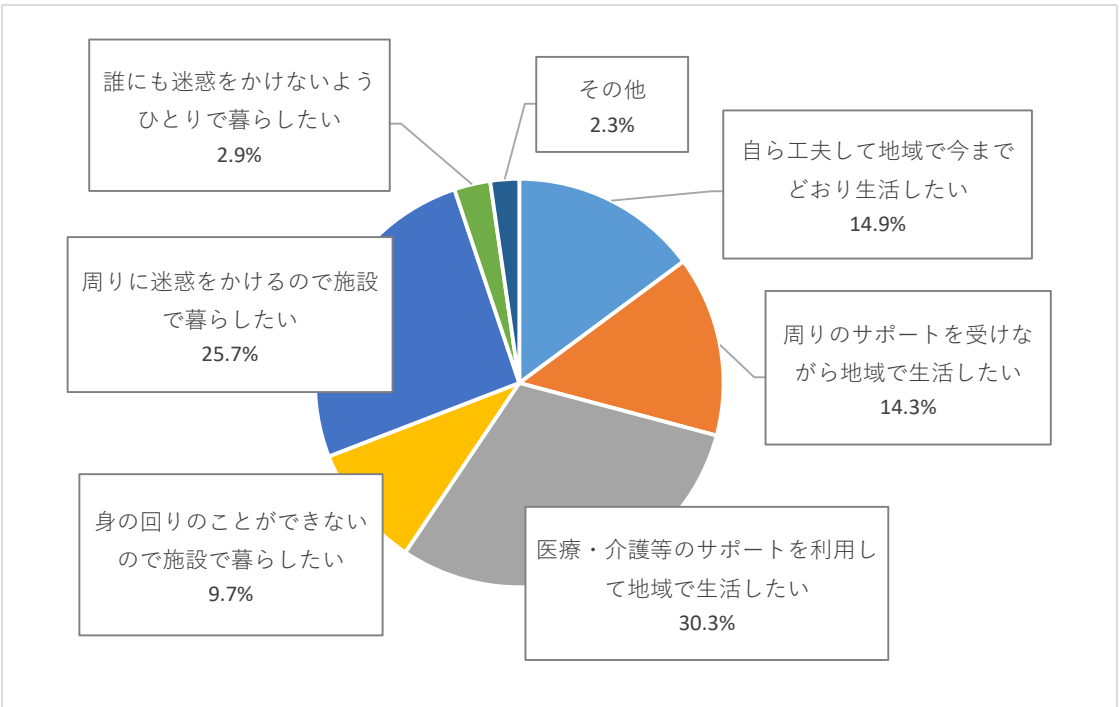


問10　もし、あなたが認知症になったとしたら、どのように暮らしたいと思いますか。あなたが思う暮らしに最も近いものをお答えください。（回答は1つ）必須

n= 175

	全体		10･20代	30･40代	50･60代	70歳以上
自ら工夫して地域で今までどおり生活したい	26	14.9%	3	7	14	2
周りのサポートを受けながら地域で生活したい	25	14.3%	4	7	11	3
医療･介護等のサポートを利用して地域で生活したい	53	30.3%	5	22	20	6
身の回りのことができないので施設で暮らしたい	17	9.7%	1	9	6	1
周りに迷惑をかけるので施設で暮らしたい	45	25.7%	5	21	17	2
誰にも迷惑をかけないようひとりで暮らしたい	5	2.9%	2	1	2	0
その他	4	2.3%	0	2	2	0
合　計	**175**	**100%**	**20**	**69**	**72**	**14**

その他･･･
･状況に応じて家族に選択してもらう。
･程度にもよるが、生きたくない。
･問9と同様に自らであってもその時々で妻や周囲の方々、ケアマネや医療介護（保険）の対応を考えていただければと思います。
･適切な周りの理解やサポートを受けつつ、医療･介護等のサポートを利用しながら、可能な限り自分らしく穏やかに地域や社会で生活したい。

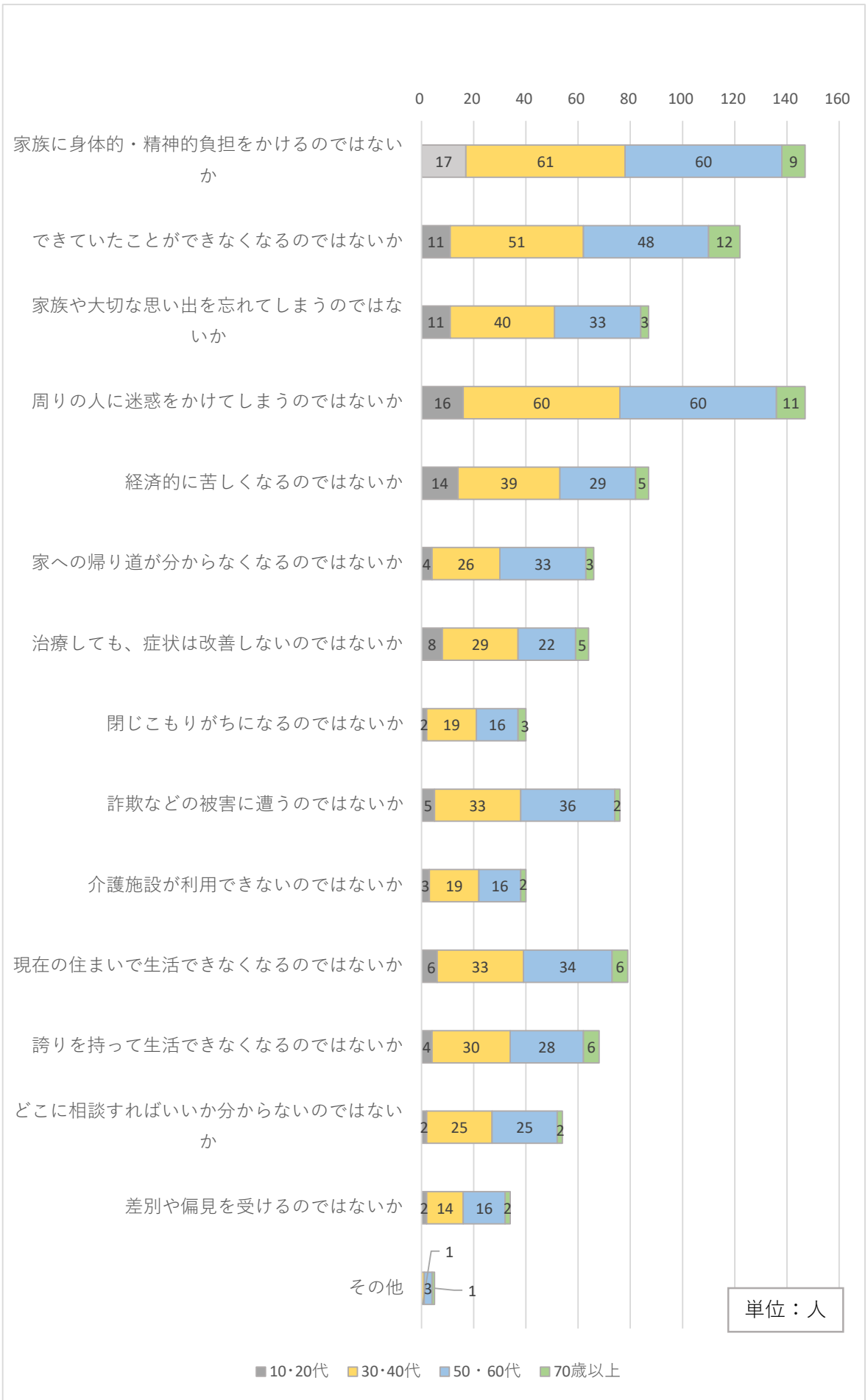


問11　もし、あなたご自身が認知症になったとしたら、どのようなことに不安を感じると思いますか。特に不安と感じることをお答えください。（回答はいくつでも）必須

n= 175

	全体		10･20代	30･40代	50･60代	70歳以上
家族に身体的･精神的負担をかけるのではないか	147	84.0%	17	61	60	9
できていたことができなくなるのではないか	122	69.7%	11	51	48	12
家族や大切な思い出を忘れてしまうのではないか	87	49.7%	11	40	33	3
周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか	147	84.0%	16	60	60	11
経済的に苦しくなるのではないか	87	49.7%	14	39	29	5
家への帰り道が分からなくなるのではないか	66	37.7%	4	26	33	3
治療しても、症状は改善しないのではないか	64	36.6%	8	29	22	5
閉じこもりがちになるのではないか	40	22.9%	2	19	16	3
詐欺などの被害に遭うのではないか	76	43.4%	5	33	36	2
介護施設が利用できないのではないか	40	22.9%	3	19	16	2
現在の住まいで生活できなくなるのではないか	79	45.1%	6	33	34	6
誇りを持って生活できなくなるのではないか	68	38.9%	4	30	28	6
どこに相談すればいいか分からないのではないか	54	30.9%	2	25	25	2
差別や偏見を受けるのではないか	34	19.4%	2	14	16	2
その他	5	2.9%	0	1	3	1

その他･･･
･自分らしく生活できなくなるのではないか。
･三親等以内の親族が誰もいなくなること。
･私は一人暮らしです。認知症になった場合、身辺整理が出来るかどうかが心配です。
･自分が変わってしまう、性格が変わったねとか、周囲の人に思われる。
･社会的な活動や生活の糧になるような仕事ができなくなったり、見つからなくなるのではないか。

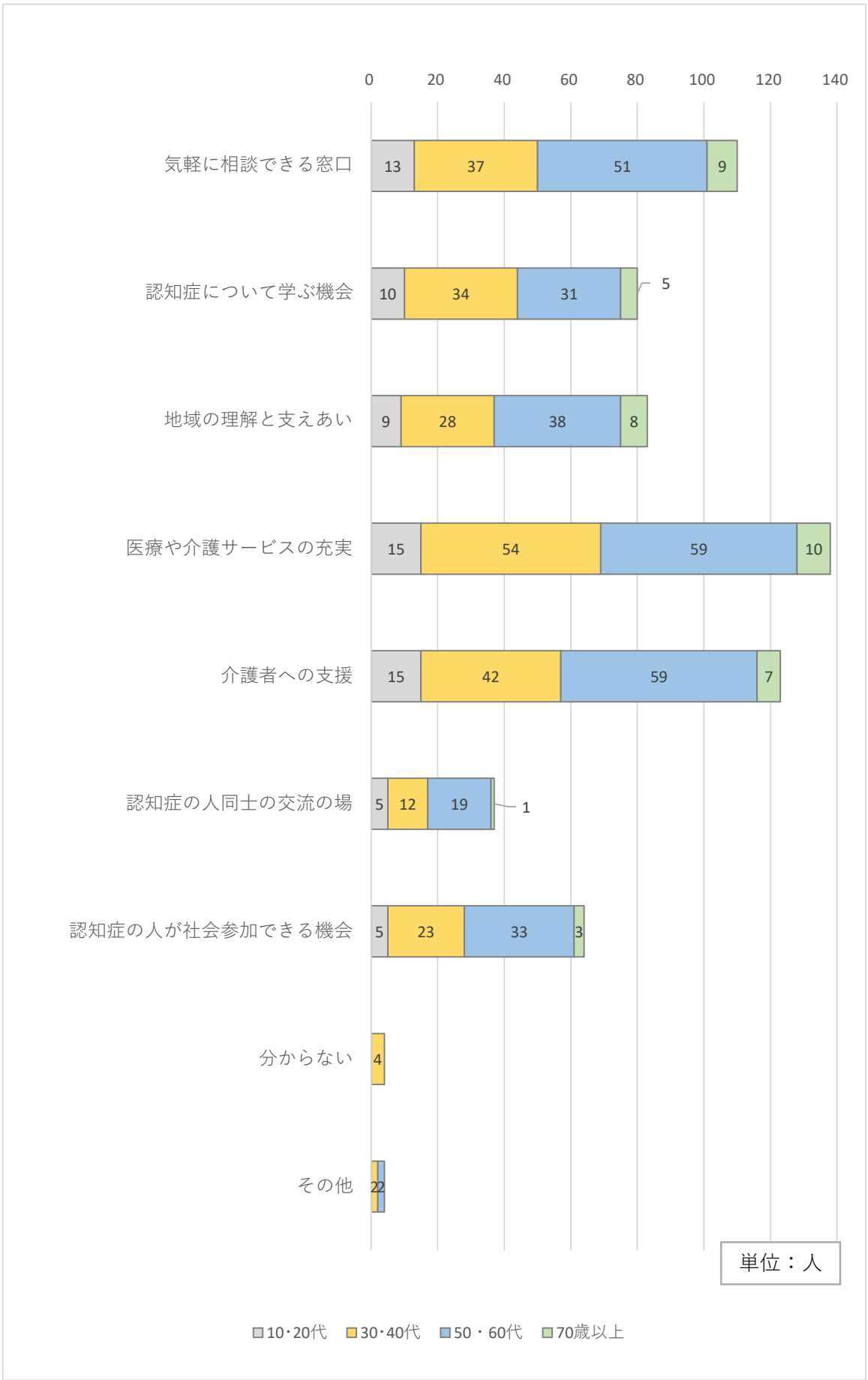

0
20
40
60
80
100
120
140
160
家族に身体的・精神的負担をかけるのではないか
17
61
60
9
できていたことができなくなるのではないか
11
51
48
12
家族や大切な思い出を忘れてしまうのではないか
11
40
33
3
周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか
16
60
60
11
経済的に苦しくなるのではないか
14
39
29
5
家への帰り道が分からなくなるのではないか
4
26
33
3
治療しても、症状は改善しないのではないか
8
29
22
5
閉じこもりがちになるのではないか
2
19
16
3
詐欺などの被害に遭うのではないか
5
33
36
2
介護施設が利用できないのではないか
3
19
16
2
現在の住まいで生活できなくなるのではないか
6
33
34
6
誇りを持って生活できなくなるのではないか
4
30
28
6
どこに相談すればいいか分からないのではないか
2
25
25
2
差別や偏見を受けるのではないか
2
14
16
2
その他
1
3
1
単位：人
10･20代
30･40代
50・60代
70歳以上

問12　認知症になってからも安心して暮らし続けるために、地域に必要だと思うことをお答えください。（回答はいくつでも） 必須

n= 175

	全体		10･20代	30･40代	50･60代	70歳以上
気軽に相談できる窓口	110	62.9%	13	37	51	9
認知症について学ぶ機会	80	45.7%	10	34	31	5
地域の理解と支えあい	83	47.4%	9	28	38	8
医療や介護サービスの充実	138	78.9%	15	54	59	10
介護者への支援	123	70.3%	15	42	59	7
認知症の人同士の交流の場	37	21.1%	5	12	19	1
認知症の人が社会参加できる機会	64	36.6%	5	23	33	3
分からない	4	2.3%	0	4	0	0
その他	4	2.3%	0	2	2	0

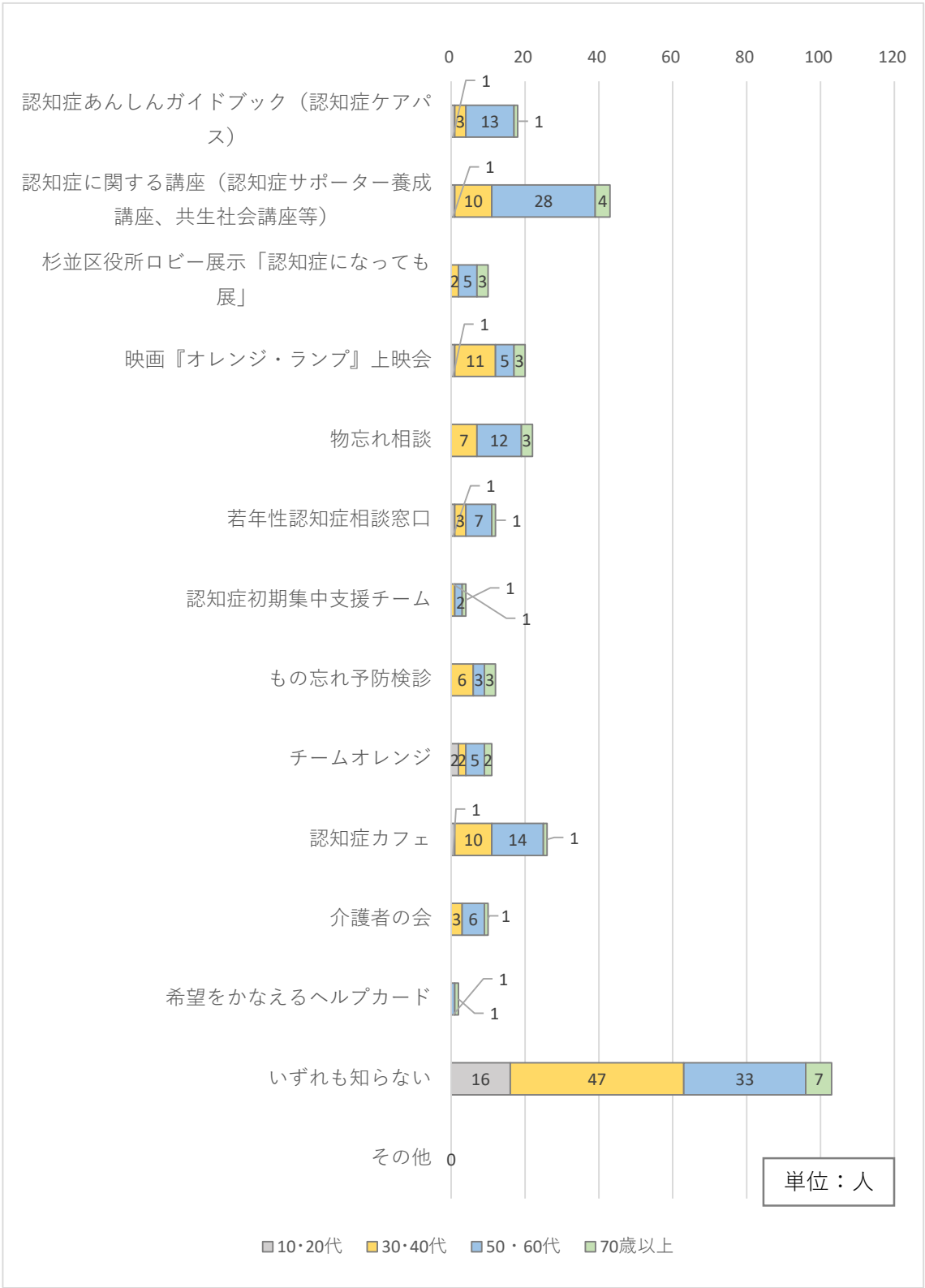
その他・・・
・認知症の地域の理解は理想であるが難しく感じる。何年も先であれば出来るのかも知れないが、私が生きているうちには難しいだろう。認知症で無く、障がい者や車椅子の人、目の悪い人にですら現在は地域の理解を得られていない。その原因は当事者の声が届いておらず他者には理解不可能なのだろう。
・軽度認知症の症状緩和につながるプログラム。若年性認知症の方とご家族のサポート。中等教育からの認知・理解につながる教育。
・認知症の人もそうでない人も、様々な人が一緒に気軽に交流しながら楽しめ、日常的に情報提供や情報共有できる案内所のような場（カフェ風・食堂風・居酒屋風など）。
・祖父が大分進行した状態で家族の事も分からなくなってしまい知らない人が家にいる、泥棒だ！と騒ぎになったことがあり、本人も認知症と自覚亡くなるまで認知症と自覚できてなかったので、本当に人それぞれの対応の仕方が必要になるのではないかと思います。


0
20
40
60
80
100
120
140
気軽に相談できる窓口
13
37
51
9
認知症について学ぶ機会
10
34
31
5
地域の理解と支えあい
9
28
38
8
医療や介護サービスの充実
15
54
59
10
介護者への支援
15
42
59
7
認知症の人同士の交流の場
5
12
19
1
認知症の人が社会参加できる機会
5
23
33
3
分からない
4
その他
2
2
単位：人
10･20代
30･40代
50・60代
70歳以上

問13　以下の認知症に関する区の取組について知っているものをお答えください。（回答はいくつでも）必須

n= 175

	全体		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
認知症あんしんガイドブック（認知症ケアパス）	18	10.3%	1	3	13	1
認知症に関する講座（認知症サポーター養成講座、共生社会講座等）	43	24.6%	1	10	28	4
杉並区役所ロビー展示「認知症になっても展」	10	5.7%	0	2	5	3
映画『オレンジ・ランプ』上映会	20	11.4%	1	11	5	3
物忘れ相談	22	12.6%	0	7	12	3
若年性認知症相談窓口	12	6.9%	1	3	7	1
認知症初期集中支援チーム	4	2.3%	0	1	2	1
もの忘れ予防検診	12	6.9%	0	6	3	3
チームオレンジ	11	6.3%	2	2	5	2
認知症カフェ	26	14.9%	1	10	14	1
介護者の会	10	5.7%	0	3	6	1
希望をかなえるヘルプカード	2	1.1%	0	0	1	1
いずれも知らない	103	58.9%	16	47	33	7
その他	0	0.0%	0	0	0	0


0
20
40
60
80
100
120
認知症あんしんガイドブック（認知症ケアパス）
1
3
13
1
認知症に関する講座（認知症サポーター養成講座、共生社会講座等）
1
10
28
4
杉並区役所ロビー展示「認知症になっても展」
2
5
3
映画『オレンジ・ランプ』上映会
1
11
5
3
物忘れ相談
7
12
3
若年性認知症相談窓口
1
3
7
1
認知症初期集中支援チーム
1
2
1
もの忘れ予防検診
6
3
3
チームオレンジ
2
2
5
2
認知症カフェ
1
10
14
1
介護者の会
3
6
1
希望をかなえるヘルプカード
1
1
いずれも知らない
16
47
33
7
その他
0
単位：人
10･20代
30･40代
50・60代
70歳以上

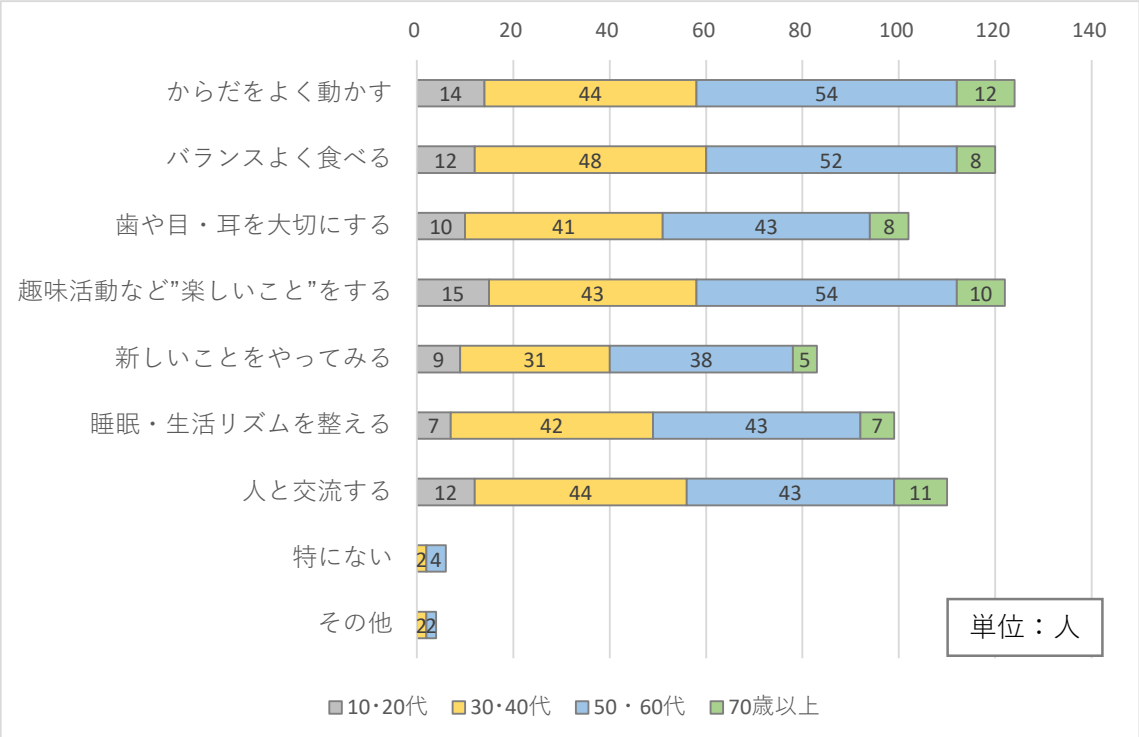
◆ 認知症への備え（日頃の健康づくりや認知症について学ぶこと）

問14　「元気な体」を維持することは、認知症の発症と進行を遅らせることにつながります。以下のうちあなたが日頃実践していることをお答えください。（回答はいくつでも）必須

n= 175

	全体		10･20代	30･40代	50･60代	70歳以上
からだをよく動かす	124	70.9%	14	44	54	12
バランスよく食べる	120	68.6%	12	48	52	8
歯や目・耳を大切にする	102	58.3%	10	41	43	8
趣味活動など”楽しいこと”をする	122	69.7%	15	43	54	10
新しいことをやってみる	83	47.4%	9	31	38	5
睡眠・生活リズムを整える	99	56.6%	7	42	43	7
人と交流する	110	62.9%	12	44	43	11
特にない	6	3.4%	0	2	4	0
その他	4	2.3%	0	2	2	0

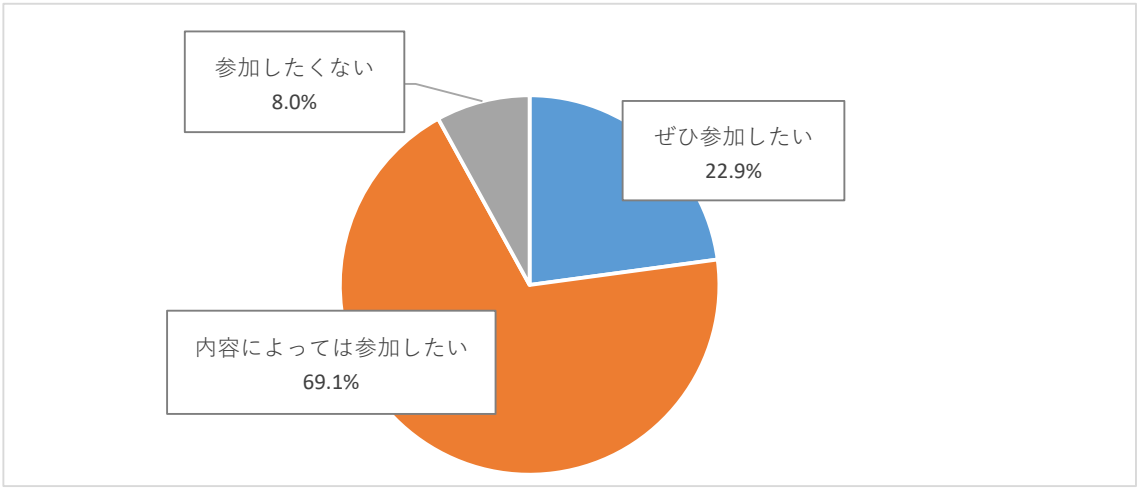
その他・・・
・60歳を越えると徐々に自然に認知機能は低下していくので（認知症サポーターの講座にて聴きました）常に脳をはたらかせる必要があると思っております。
・睡眠　生活リズムを、整えるは個人によって良し悪しがあると思います。夜だから寝なくてはいけないと眠れないのに布団の中で悶々とするのはかえって良くないと思います。私は眠くなったら昼間でも眠り、食べたくなったら食べる。という生活をすることにより、とても精神が安定しています。
・子供向けイベントに積極的に参加。
・散歩する。できるだけ歩く。



問15　認知症について学ぶ機会があれば参加したいですか。（回答は1つ）必須

n= 175

	全体		10･20代	30･40代	50･60代	70歳以上
ぜひ参加したい	40	22.9%	7	14	15	4
内容によっては参加したい	121	69.1%	12	47	54	8
参加したくない	14	8.0%	1	8	3	2
合　計	**175**	**100%**	**20**	**69**	**72**	**14**

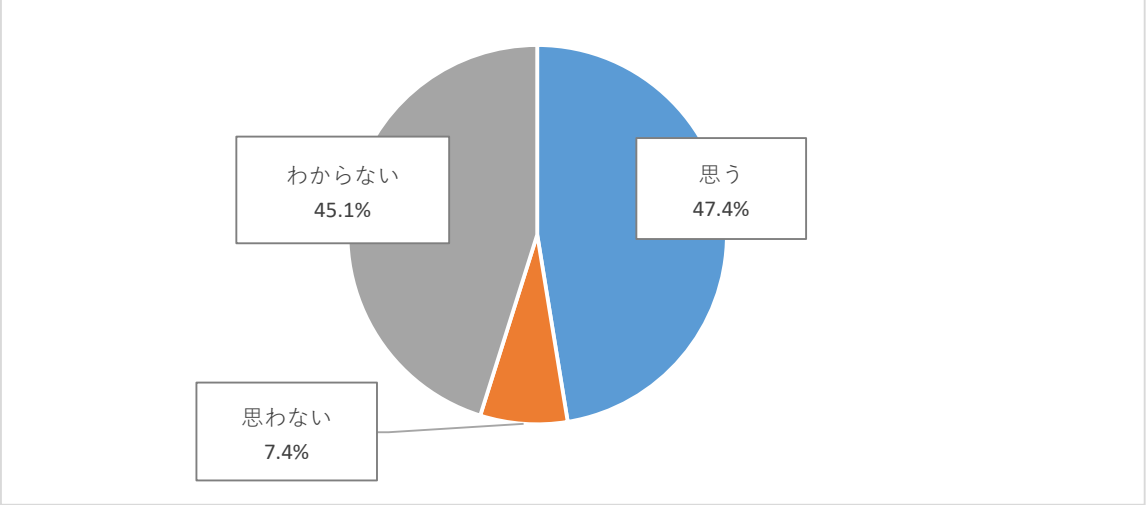


◆　認知症の人への対応、相談先について

問16　「認知症かもしれない」と思う人を見かけた際、声掛けや手助けをしたいと思いますか。（回答は1つ）必須

n= 175

	全体		10･20代	30･40代	50･60代	70歳以上
思う	83	47.4%	11	29	36	7
思わない	13	7.4%	2	8	3	0
わからない	79	45.1%	7	32	33	7
合　計	**175**	**100%**	**20**	**69**	**72**	**14**

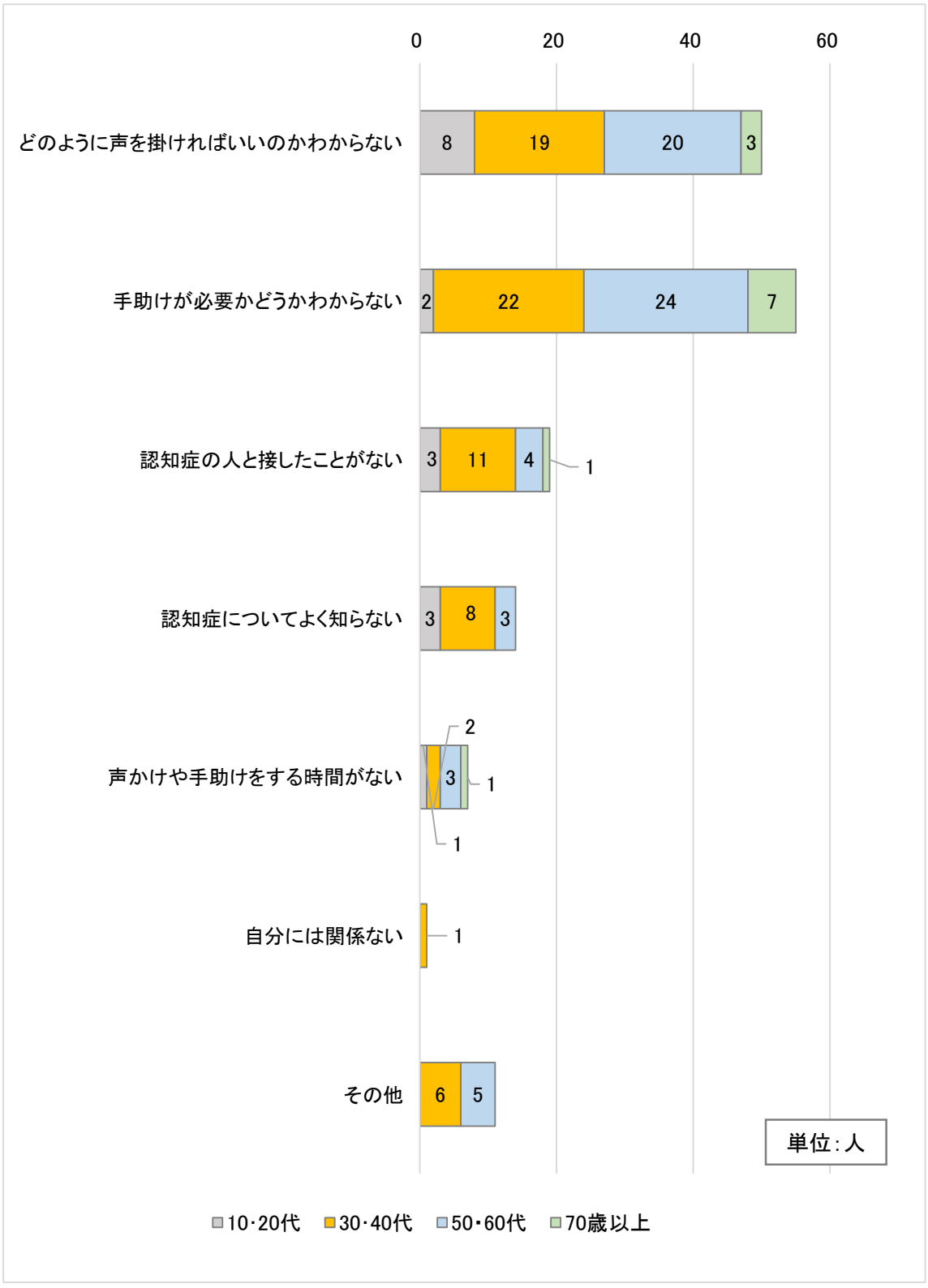


問17　（問16で「思わない」、「わからない」と回答した方）声掛けや手助けをためらう理由についてあてはまるものをお答えください（回答はいくつでも）必須

n= 92

	全体		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
どのように声を掛ければいいのかわからない	50	54.3%	8	19	20	3
手助けが必要かどうかわからない	55	59.8%	2	22	24	7
認知症の人と接したことがない	19	20.7%	3	11	4	1
認知症についてよく知らない	14	15.2%	3	8	3	0
声かけや手助けをする時間がない	7	7.6%	1	2	3	1
自分には関係ない	1	1.1%	0	1	0	0
その他	11	12.0%	0	6	5	0

その他・・・
・知り合いが認知症らしい時ならば声掛けし、手伝いたい。しかし相手が異性だったり、まるっきりの初対面だった場合は認知症の有無にかかわらず、話しかけにくいし、何より、現在の日本はなにか起きた時責任を問われる社会なので自ら動きたくない。
・何が刺激になってしまうか個人差もある中で、適切な対応が判断できない。また体力が必要な場面では自信がない。駅なら駅員さん、病院ならスタッフや看護師さんなどに繋ぐと思う。
・相手がどう思うかわからない。
・本来は声掛けや手助けしてあげたいが現状はそのリスクが大きすぎるので。
・手を指しのべたときに逆に文句を言われる、例えばお金を取ろうとしているなど疑われるのが嫌だ。
・認知症の症状やあり方、ご自身がどうとらえているかは人それぞれなので、地域の方とはいえ声掛けは非常に難しい。
・たいてい子連れで歩いているのでその際は控えると思ったから。
・声かけひとつとっても、当事者の方の症状ともともとの性格、性質、バックグラウンドなどを考慮すると、瞬発的に声かけするのはとてもハードルが高い。その方の尊厳を傷つけないように言葉や表情を選ぶのがとても大変だと感じます。
・認知症の可能性のある人が一人でいて、その人を町で見かけた場合、警察等しかるべき機関に情報提供するのが良いかと思われるが、自分は電磁波過敏症のため携帯電話を持っていない。近くに交番でもない限り連絡手段がないため。
・認知症のフリをしている危険な人の可能性があるから。
・声掛けや手助けが多少なりともプラスに働けばよいが、自分には専門知識や技術・経験がないので、その根拠に乏しく責任が持てないでいる。

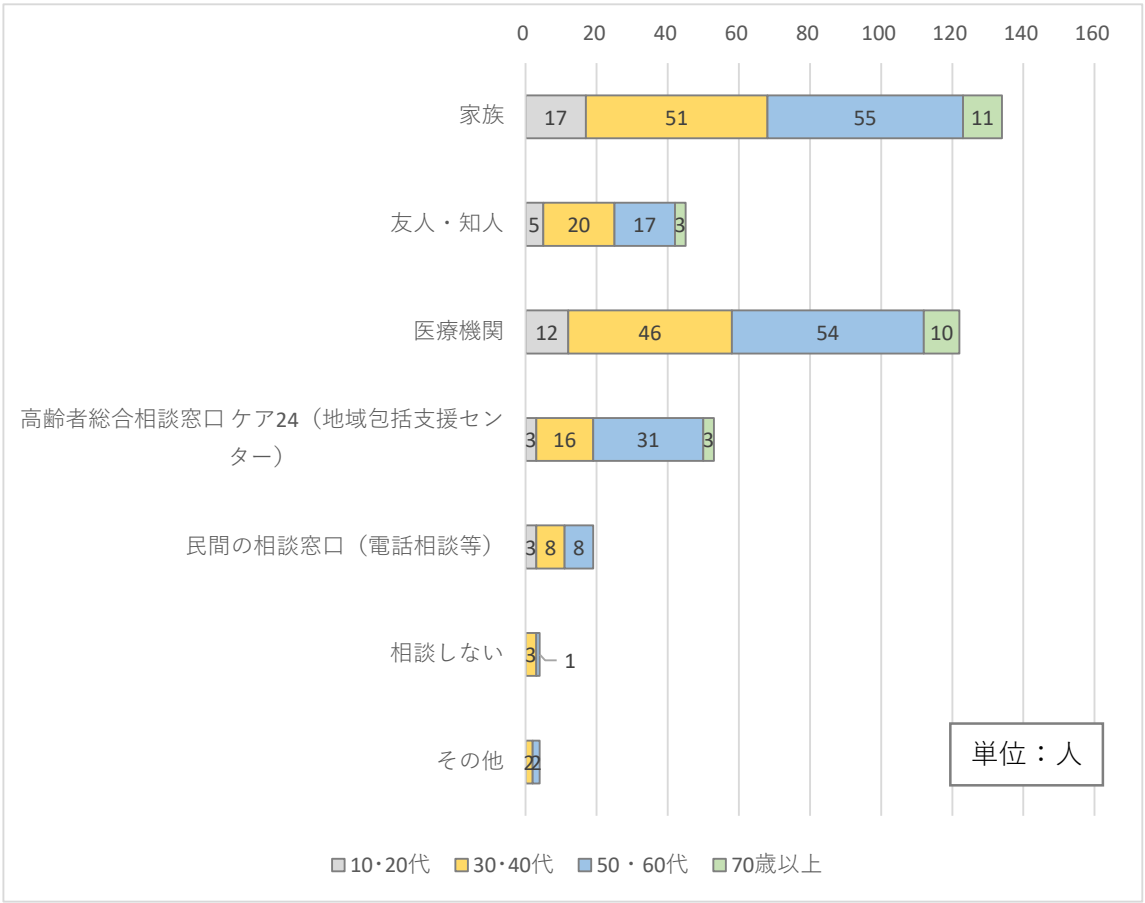

0
20
40
60
どのように声を掛ければいいのかわからない
8
19
20
3
手助けが必要かどうかわからない
2
22
24
7
認知症の人と接したことがない
3
11
4
1
認知症についてよく知らない
3
8
3
声かけや手助けをする時間がない
2
3
1
1
自分には関係ない
1
その他
6
5
単位：人
10・20代
30・40代
50・60代
70歳以上

問18　仮にあなた自身や身近な人が「認知症かもしれない」と感じた場合、誰に相談しますか。（回答はいくつでも）必須

n= 175

	全体		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
家族	134	76.6%	17	51	55	11
友人・知人	45	25.7%	5	20	17	3
医療機関	122	69.7%	12	46	54	10
高齢者総合相談窓口 ケア24（地域包括支援センター）	53	30.3%	3	16	31	3
民間の相談窓口（電話相談等）	19	10.9%	3	8	8	0
相談しない	4	2.3%	0	3	1	0
その他	4	2.3%	0	2	2	0

その他・・・
・既に認知症を患っていても上手に暮らしている方
・AI、ネット掲示板など。
・身近にいる医療・福祉・介護関係の人
・家族、友人・知人の後行政の取り組みを調べると思う。



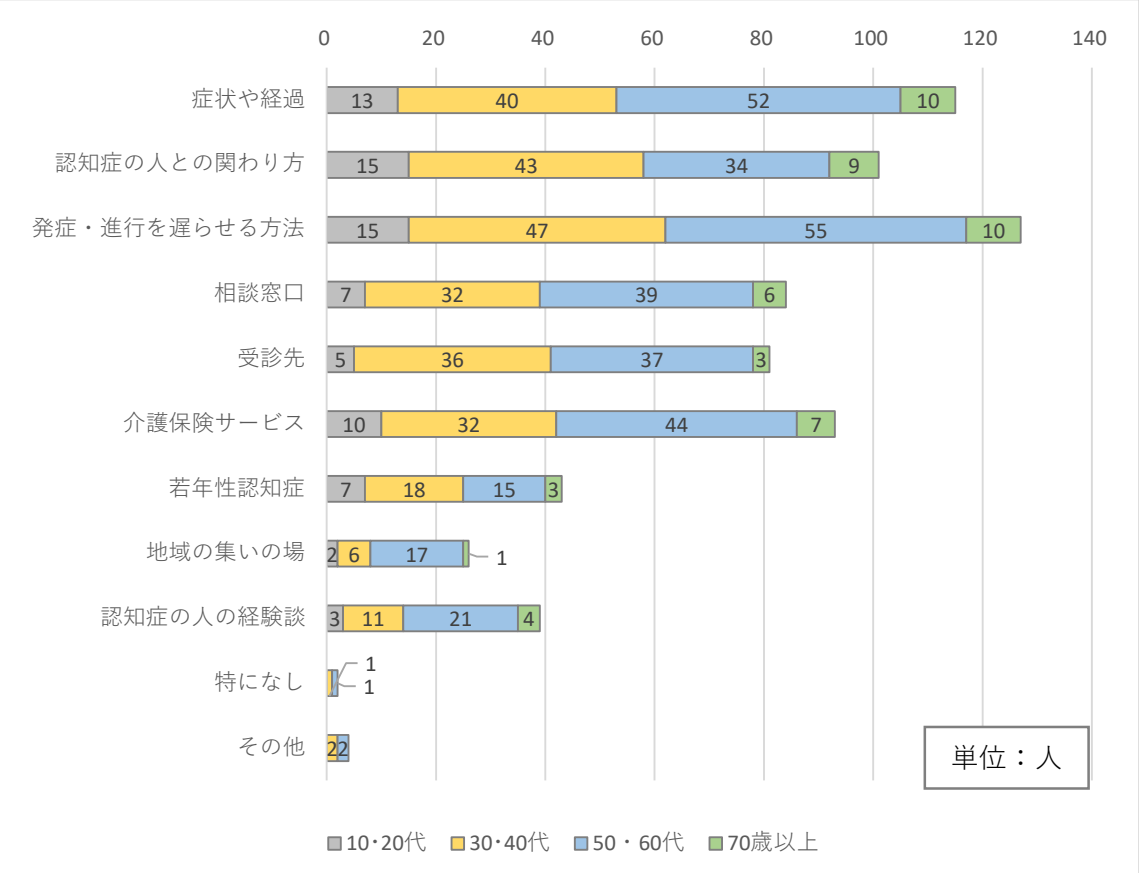
◆ 情報ニーズ・情報入手方法

問19　認知症について知りたい情報は何ですか。（回答はいくつでも）必須

n= 175

	全体		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
症状や経過	115	65.7%	13	40	52	10
認知症の人との関わり方	101	57.7%	15	43	34	9
発症・進行を遅らせる方法	127	72.6%	15	47	55	10
相談窓口	84	48.0%	7	32	39	6
受診先	81	46.3%	5	36	37	3
介護保険サービス	93	53.1%	10	32	44	7
若年性認知症	43	24.6%	7	18	15	3
地域の集いの場	26	14.9%	2	6	17	1
認知症の人の経験談	39	22.3%	3	11	21	4
特になし	2	1.1%	0	1	1	0
その他	4	2.3%	0	2	2	0

その他・・・
・最近製薬会社と医者が治験のようなものを始めている。採決して経年症状をむこう10年ほど確認するといった主旨のもの。自分のため、世のためにとても興味がある。
・自分が家族や親せきの認知症の者と接したのはかなり昔で地域も違うため、今現在、東京都・杉並区でどんなサポートがあるのか知りたい。
・認知症の家族をささえる家族の工夫。
・認知症になってからの就労や社会活動への参加に関する情報。

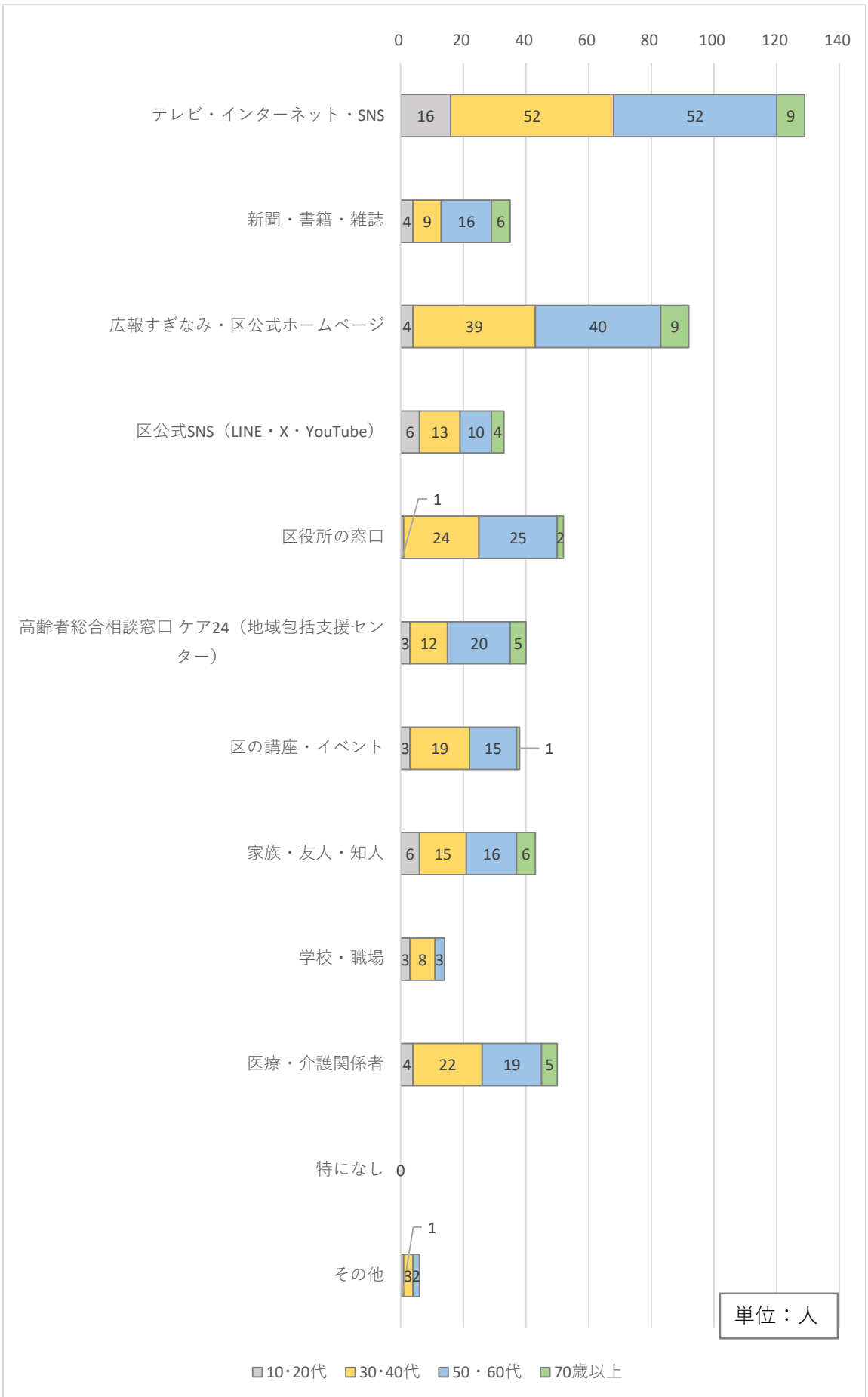


問20　認知症に関することや区の認知症施策・取組について知りたいと思ったときに、どこから情報を得ますか。（回答はいくつでも） 必須

n= 175

	全体		10・20代	30・40代	50・60代	70歳以上
テレビ・インターネット・SNS	129	73.7%	16	52	52	9
新聞・書籍・雑誌	35	20.0%	4	9	16	6
広報すぎなみ・区公式ホームページ	92	52.6%	4	39	40	9
区公式SNS（LINE・X・YouTube）	33	18.9%	6	13	10	4
区役所の窓口	52	29.7%	1	24	25	2
高齢者総合相談窓口 ケア24（地域包括支援センター）	40	22.9%	3	12	20	5
区の講座・イベント	38	21.7%	3	19	15	1
家族・友人・知人	43	24.6%	6	15	16	6
学校・職場	14	8.0%	3	8	3	0
医療・介護関係者	50	28.6%	4	22	19	5
特になし	0	0.0%	0	0	0	0
その他	6	3.4%	1	3	2	0

その他・・・
・保険会社等その領域の商売をしている企業に聞く。
・町内会の掲示板
・杉並区民生委員児童委員でケア24（梅里、堀ノ内）と接しております。
・調べるなかで出てきた専門機関など
・今までは区役所の窓口しかないと思っていた。
・電車の広告やバスの広告、掲示板


0
20
40
60
80
100
120
140
テレビ・インターネット・SNS
16
52
52
9
新聞・書籍・雑誌
4
9
16
6
広報すぎなみ・区公式ホームページ
4
39
40
9
区公式SNS（LINE・X・YouTube）
6
13
10
4
区役所の窓口
1
24
25
2
高齢者総合相談窓口 ケア24（地域包括支援センター）
3
12
20
5
区の講座・イベント
3
19
15
1
家族・友人・知人
6
15
16
6
学校・職場
3
8
3
医療・介護関係者
4
22
19
5
特になし
0
その他
1
3
2
単位：人
10･20代
30･40代
50・60代
70歳以上

問21　認知症に関することについて、ご意見やご要望がありましたらご記入ください。（自由記述）

【認知症に関する知識・理解・啓発】

・もっと、理解を深めたい。
・自分自身が、おかしいと気がつく方法や知識が知りたいです。そのためにはどんな勉強をしたらいいのか、具体的に教えてほしい。
・まだ身近なことの認識が足りなくて申し訳なく思います。
・かつて認知症に関する講座に参加し、オレンジリングをもらいました。しかし、その後、周辺に認知症の人になる人はいなかったので、関心も薄れつつあります。ただし、今度はいよいよ自分自身が認知症になってもおかしくない年齢になってきました。自覚症状が出る前に、新たな知識を得るなど、まず自助努力からと考えています。
・誰もが認知症になる可能性があり、また、家族がかかる可能性もあるのでとても身近なことなのに知らないことが多いです。知らないと過剰に不安になるので、認知症について学ぶ機会や実際に認知症の方と知り合う機会が地域であると心配や不安が減るのではないかと考えます。逆に認知症の方も不安なことがあるかと思うのでお互いの理解を共有できると良いのですが。
・大学生でも気軽に参加できるようなセミナーを開催してほしいです。また、それが資格などで就活などに使えたら嬉しいです。
・今までは近隣の住人が認知症を発症した状況・行動を見たり、また親戚が認知症で介護施設に入居した事を耳にした事はありますが、自分にはまだ身に迫った年齢と考えていました。しかし、最近その年齢に近づくに連れて、また加齢と共に体力や気力が徐々下してくると認知症を意識せざるを得なくなってきましたが、認知症の基本的な知識・情報については、これから調べてみようと考えています。もし可能であれば、行政が過去の発症例などのデータを参考にして、一定の年齢以上の人達を対象にした（希望者を募集して）取り組みや対応の仕組み等について、基本的な情報に関する説明会等を行って頂けると助かります。
・まだ自分ごとではありませんが、今後家族や自分がリスクがあることを考えると、若いうちから知識を備えておきたいと思いました。積極的に区民への働きがけをお願いしたいです。よろしくお願いいたします。

・まだ自分自身は身近ではありませんが、義母が同じ話を何回もしたりするともしかして認知症では？と思ったりします。専門の病院を早めに受診した方が良いと思っていても、それを切り出す私の言葉で義母を傷つけてしまわないか(高齢者も自分は違うという意識が強い)などの不安もあります。接し方の知識がないので、勉強しなければと思いつつも、やはりまだ身近ではないので、なかなか始められていません。
・寿命が延びるということは、がんや認知症が増えるという認識は多くの人が持っていると思う。ただ、自分はそうならないと考えている人がほとんどではないだろうか（私もその一人です）。しかし、その認知症は誰がなるかはわからない。自分事にするための認知が大切だと思います。それを地域で担えるのは行政だと思います。
・認知症について、まだぴんとこないです。
・認知症といっても程度や症状は異なるので、一概に、自分が認知症になったときの対応といっても、程度によって異なると思います。
・認知症対策や詐欺対策という名目で、高齢者の自由が制限されることのないようにしてほしい。

【認知症への不安・予防・早期発見】

・一緒に暮らす家族が現在いない。なので認知症の問題は私が発症することが一番大きい。独居の状態で、認知症を発症した場合どうすればいいか非常に不安である。自分がそうなっていることに気づくのか？気づかないまま進行していたらどうしようという不安が大きい。
・若年性認知症が怖いです。40歳以降は介護保険第２号被保険者に該当することを知っているので、なるべく負担にならない程度の費用で適切な医療や介護を利用できますが、もしそれ以前に自分がなったら仕事熱心な夫は介護をしてくれそうにもなく、子供は幼いので、何もしないでいると気づかずうちに進行していく一方だと思いました。進行していく前に、できるだけ早く行政と相談し、社会とつながりを持てば進行が進まずに、身の回りのことを最低限のことはできるのかな、と思いました。私の祖母は要介護５でした。寝たきりだったのですが、日にちと曜日がわからないで生活していました。一方、親戚は今は施設にいますが、要支援２なのであちこち歩きまわって警察から電話が来ることもありました。認知症が身近な私はこれから先、気を付けないといけないので正解かはわかりませんが、毎日できるだけ頭を使おうと資格の勉強をしています。
・自分や家族が認知症になることの恐怖感がやわらぐ取り組みがあるといいなと思います。
・氷河期世代からすると不安しかありません。家族が認知症になること、自分自身が認知症になること、すべてが不安です。
・認知症リハビリ等を公共の場で定期的に開催
・近所の方でしばしば約束しても忘れてしまう方がいらっしゃるのですが認知症なのでしょうか？

・認知症になってからではなく、なる可能性が高まる要因（日常の行動や年齢など）を事前に知れる機会があった方が良いと思う。
・加齢による通常の記憶違いや物忘れと初期の認知症の違いがよく分からず、認知症などと言われると立腹してしまうことが多いように思うので、それを識別するテストや診断などが気軽に受けられると良いのではないでしょうか。
・自分が認知症になったら家族や周囲に迷惑をかけてしまうかもしれないと思うと心配で不安です。
・SNSとAIの急速な発展がもたらす新しい世代の認知症に対する危惧
・他区に住んでいる母が認知症です。遺伝的に私も将来認知症になる確率が高傾向にあります。今から認知症について自身と周囲の理解を深め、いざという時の備えをしていきたいです。
・テレビ（ドキュメンタリー番組やドラマ）等でよく見聞きするけど、実際の家族やまわりの方で認知症になった方がいないからどこか他人事のように考えてしまっている。いや、家族や自分がなるかもしれないのに、考えないようにしてしまっているだけかもしれない。自分がなったら人生終わりだと思っている。お金もないし絶望してひっそりと死にたいと思ってしまいそう。もっときちんと知らなくてはいけないのに。
・実際に関わったことがなく、あまり実感がない回答で申し訳なく思います。症状そのものは何となく聞いたことがありますので、予防法や発症しやすい年齢、発症したら何をすべきかなどを知る機会があればと思います。
・周りに認知症の人は居なく、想像でしかないですが、自分や家族がそうなったら本当に怖いです。周りの人に迷惑をかけたくないし、施設に入居出来るようにせめて金銭面でも考えておかないといけないのかなと思います。
・コロナ中にアルバイトをしていた先に認知症の方がいらしたのでその間関わっておりましたが、コロナが明け通常の仕事に戻ってからは以前同様に認知症の方を接する機会が無くなりました。コロナ中の経験を踏まえ、かつ両親も高齢な事と、あと誰しもそうだろうが自分も諸頼認知症になりえる、という事実から、認知症の事を少しでも多く知っておきたいと思います。その為認知症を少しでも防ぐ、若しくは遅らせる努力として普段から規則正しい生活や定期的な運動などを行っているますが、その他にも今からでも出来る予防法を一つでも多く知ってそれに取り組みたいを思います。
・認知症は誰でもなってしまうリスクがあるので気をつけなければいけないが、まだ若い世代にとっては先のことのように感じる。とはいえ、年齢を追うごとに人口は少なくなり、仮に今の20代が50年～60年経過した際には更に下の世代への負担は今よりも大きくなる。テクノロジーや医療の進歩で症状の進行を抑えることはできる未来への希望も持ちつつ、現役世代でも、自らが認知症になりにくくするような日々の行動などがあれば実践したいと思う。世間では若い世代に問題が当てられがちだが、今やショート動画・SNSなどのデジタルコンテンツを楽しむのは子供～中高年まで世代関係なく浸透している。世代に関係なく、デジタル社会と付き合う上で認知症予防と向き合えるようなものがあれば知りたいと思った。

・自分の身近には認知症がいないので他人事に思ってしまうのですが、予防方法やどういう場合に発症しやすいなど知りたくなりました。

【相談窓口・情報提供の充実】

・認知症について、正直あまり知っていることがありませんが、例えば家族が認知症になった時に安心して相談するような仕組みが区にあるといいなと改めて思いました。　近所でも認知症かなと思う方がいますが、どう接したら良いのかわからないことがあります。
・区としての政策や情報発信だけでなく、区から区内の町内会等にも発信できるように連携すると、地域での認知症に関する意識がより高くなるのではと思う。
・対処方法等をもっとホームページ等で情宣して欲しい。
・日頃考えたことがないので、身近な人や自分が当事者になった時にかなり焦ると思います。駅前など目につくところに相談窓口の案内があるといいです。
・どこの誰にどうやって相談できるのか教えてほしいです。40歳を過ぎた人は誰しもが不安に思うことであります。緊急ではない医療の無料相談窓口や電話相談、チャットなどがあれば利用したいです。
・問13にあるように杉並区の認知症に関する取り組みがや窓口があることを認識していなかったので、コストはかかるかもしれませんが、やはりネットやXだけでなく年配者向けにチラシなどの紙媒体を配布するなどの周知をしていただけるといいと考えます。
・今回のアンケートで区として課題感を持ちアクションしていることを初めて知りました。今後は区報やSNSを気にかけてみるようにしたいです。
・介護のあり方が人それぞれ違うように、認知症を患った人のその後の生活の仕方も型にはめることは難しいと思う。当人と家族の方々、また、その関係性等を総合的に考えて、どのような支援のあり方が望ましいのか、落ち着いて相談にのってもらえる地域の相談口が必要に思える。
・当時私が親から聞いたのは、「いきつけのお医者さんがいないと老人ホームも入れないので、病気じゃなくてもクリニックに通うのが良い」と言うことで、事実それをやっていないと認知症があると施設に入れない人もありました。現在の制度、特に一人暮らしの場合、どのようなプロセスで相談や手続きをすすめられるのか、費用はどうなるのかを早くから知っておきたいです。
・1.「認知症あんしんガイドブック」について、今回このアンケートで初めて存在を知った。「家族や支援者向けではなく、本人に向けた構成」とのこと。本人に寄り添った温かい内容なのだろうと推察するが、もし家族が認知症になったら、家族や支援者として知りたい情報もあると思う。「家族+支援者」版も作成していただけるとありがたいです。
2.問13の「物忘れ予防検診」は、65歳の人が受けられるインフルエンザやコロナの予防接種のように〇〇歳の人、全員が受けられるよう助成していただけると有難いです。

・家族に認知症の方がいないと、なかなか自分ごととして捉えるのが難しいと思う。一般の方にも届くような形で情報発信して欲しいです。
・認知症問題に関しては自助と公助の２つ観点を持たなければと思いました。私は４０代ですが、自身で予防する方法なども思い浮かばず、チェックする機会もありません。そして同時に高齢の親の心配をせねばならず、その時は突然やってくると思います。いざその時に相談する窓口や医療機関なども思い浮かびません。そんな時、区の窓口が気軽に対応してくれ態勢が整っていたらを思います。認知症問題に限らず、AIで聞ける仕組み作りが欲しいです。また、私が知識不足なだけですが、地域包括支援センターという施設があることを初めて知りました。必要な人にはちゃんと相談先として情報発信・提供されているのかな、と感じました。そして、そもそも「安心して暮らせる社会・共生できる社会」って何だろう。と考えてしまいました。杉並区で暮らしていて認知症に家族や私がなったとしても自分らしく暮らしていけたらと思いました。
・家族が認知症になると本当に辛い。デイケアや介護サービスなどの情報をニュースに取り上げられるくらい発信してほしい。
・認知症について何も知らないことがこのアンケートで発見できました。こうした、身近にあるけれども気づきにくい事柄については、区のLINEやメルマガで読み物として発信いただけると関心や理解、情報収集のきっかけになってありがたいです。
・今はまだ自分自身にとって身近なことではないので、意見や要望と聞かれて、パッと思いつきませんでした。もっと、認知症についての区の取り組みなど、当たり前のように知る機会があればいいと思いました。

【本人・家族・介護者への支援】
・認知症を持つ方の家族に対するケアも大切だと思った。
・認知症の人と同時に認知症の方を介護する人への支援も必要だと思います。
・認知症介護は家族ほど辛いです。行政に頼ること、介護サービスを利用することへの忌避感が社会からなくなり、介護者と被介護者がよい距離を保ちながら、双方が生きやすい世の中になることを祈ります。
・区の検診で認知症の検診があれば受診したい。60歳以上とか年齢を決めて。また介護をしている方の息抜きの場や同じ立場の方と交流の場などあれば良いと思う。介護する方への指導や相談の場が必要。認知症と診断された場合、本人や家族のサポート窓口が区でしっかりしていれば安心して暮らせそう。やはり一番考えないといけないのは、一人暮らしの方が認知症になった場合。一人暮らしの方が認知症になった場合、離れて住む家族に何らかのサポートがあれば介護しやすいのではないか。

・私は介護事業者です。個人的意見として、サポートがあれば地域での生活を継続出来る方が多いにも関わらず、サポートを受けることにご本人が抵抗していることが多々あります。サポートの介入が遅くなれば、認知症は進行・重度化します。家族も就業継続が困難になったり介護事業者も介助負担が高まったりと、ご本人の抵抗はデメリットしかありません。今で言えば団塊の世代、そして将来的な後期高齢者世代に向け、介護サポートを受けることが何も珍しいことではないと思える人達の多い社会であってほしい。地域包括もケアマネも、介護サービスの導入の説得に振り回されすぎている。抵抗や拒否が少なくなる風土を作ってほしい。老いに向けきれいごとではない現実に悲観するのではなく受け入れてサポートを受け地域で共生出来るよう、その心づもりを作るプログラムの実施を自治体には求めたい。
・老いた家族がいる人にとって身近な問題なので、認知症の本人や介護者が利用できる区のサービスを更に充実させて欲しい。
・認知症の両親（地方にいる）の世話をしていますが、様々な申請がたくさんあり、紙での手続きが多くて大変です。2人の時は、一回で済むような対応をとってもらえると助かります。杉並区で行われているかわかりませんが、配食サービスやオムツの実物支給やゴミを週に一回、種類に関係なく集めに来るサービスなど、支える家族には大変役立っています。認知症の方々の暮らしを支えるのには、食事とゴミは欠かせないサービスだと思います。
・昨年97歳で亡くなった父は認知症でしたが、亡くなる一年前に転倒骨折、入院するまでは介護サービスを利用しながら自宅でほぼ普通に生活していました。しかし入院し、環境が変わったことで認知症の症状が急速に悪化し、最後は老人保健施設で過ごしました。認知症の人は環境の変化に対応することが苦手であることやそれへの対処の仕方等、杉並区の施策や取組み等を調べていたらよかったのかな、と今は思いますが、当時は仕事をしながら母も在宅介護しており、余裕がなかったのが実情です。
・今年になって母の認知症が進み、様子が気になって度々実家へ帰省するようになりました。症状は一進一退で、毎日過ごしている家族は疲弊しています。家族の心のケアも大切だと感じています。下井草ではオレンジカフェが月に一度開催されていますが、参加された方は有意義に過ごされているようです。地域で助け合う取り組みが益々盛んになることを希望します。
・超高齢化社会を迎える中で、グループホーム等の受け皿が十分に整備されているのか不安を感じます。また、認知症と一口に言っても症状の程度や生活への支障の程度によっても受けるべき支援は異なると思いますので、それぞれの態度に応じた支援の充実と、適切な支援に繋ぐための相談体制の充実をお願いします。また、認知症は進行性のものですから、進行状況に応じて適切な支援に切り替える仕組みも用意して欲しいです。AIも活用して利便性の高いサービスをお願いしたいですが、老々介護の場合、新しいサービス方法に対応できない方もいますので、複層的なサービスをお願いしたいです。ケアラーである家族が孤立しないよう、家族支援、特にピア交流会など同じ悩みを抱える人のネットワーク構築も支援していただけると良いと思います。認知症の方やその家族が肩身の狭い思いをしなくて済むよう、普及啓発の取組もお願いします。

【医療・介護サービス・施設の充実】

・高齢患者は複数の疾患（心臓病と認知症のように）を抱えていることがほとんどなのだから、医師は最低限の認知症知識は持ってほしいし、持つべきです。

・認知症を始め現在は高齢者に対して国や地方自治体（介護保険、医療保険等含め）サービスが以前に比べずいぶん充実してきていると感じています。私自身20~30年前、親の認知症に関わりましたが周囲の協力や行政のサービスを受ける（自身の知識不足もあり）いろいろと大変でした。また現在は認知症の研究も進み予防や進行を遅らせる方法も多く提唱されております。その一方で介護や医療現場の人材不足や賃金に対して問題も多くあります。私自身の仕事が医療関係なのでその現場もみております。行政の今後の対応策に期待致します。

・認知症になっても自宅や住み慣れた地域で暮らせることが理想です。ただ、周りの認知症介護者の話を聞いていると、現実的には症状が進行すると家族の負担が大きくなりすぎるので自分が認知症になり症状が進行したら施設に入りたいと考えます。杉並区には、認知症患者が入れる施設の充実をお願いしたいと思います。また、なるべく地域で暮らせるよう、看多機（看護小規模多機能型居宅介護）の整備の支援をしていただきたいです。

・母がグループホームに入居しています。認知症だけでなく足腰も弱っていました。自宅でヘルパーさん、訪問看護の手を借りて自宅で見ていましたが衛生面なども含めて限度を感じました。ホームでは食事、お風呂、トイレ関係、髪のカットなど人としての暮らしを過ごしています。本当にありがたいです。軽い散歩もできるようになりました。母を家から追い出すような気持ちもありましたが、そうではありません。自宅介護には無理があります、認知症があれば尚更です。区では地域との共存を勧めている様ですが施設により入りやすい環境の推進をお願いしたいです。

・介護福祉士や看護師を守る為にも暴言・暴力行為他に危険行為やセクハラを行う認知の方は少ない予算や人員を効率よく使うためには施設からの退去や医療的な拘束もやむを得ないし、または家族での介護をお願いしてもらうしかないと現状思う。トリアージのように救える人から救うしかない。

・認知症の症状は多様であり、当事者の視点を取り入れた其々の知識と対処法が必要かと思います。現状、友人が認知症の兆候を示していても要介護認定が下りず、支援を受けられないケースがあり、行政の取り組みの浸透に疑問が残ります。また、介護現場では厚生労働省の厳格なルールにより、ヘルパーが必要なケアを行えないジレンマや、違反時のペナルティを恐れて声を上げられない実態があります。さらに、不要な投薬や診療への社会保険料の過度な投入が、ヘルパーの待遇改善や介護の質向上を妨げているのではないかと思います。人手不足解消には、住民が病院や薬への認識を改める必要があり、行政は健康への働きかけをしているのは承知しておりますが「生活に運動を取り入れ、無意味な受診や服薬を減らそう」と、高齢者へ明確に発信すべきだと思います。固定観念に縛られている高齢者にはなかなか通じないかもしれませんが、一番の問題点はそこでは無いかしら？
・実体験として、父は要介護１で認知症ではなかったですが、病院からの退院時に足腰が弱ったため一時介護施設として区内の老健に入りました。結局、老健の事なかれ主義で医療を含め、責任をもって父に対応してくれる体制がなかったため（ケアマネはまったく違う人と取り違えていたり）、老健にいた３ヵ月でどんどん認知症が進み、結果としてそこでコロナをうつされ肺炎で亡くなりました。老健の管理体制、コロナ対応については不信感しかありません。母もいま認知症が進みだしています。しかし老健での経験、相談窓口としてのケアマネの対応を見ていて、そこに頼れないというのが現在の率直な感想です。もちろん、区で対策を進めるには限界があると思いますが、介護者へのカスハラ対策ばかりでなく（まずケアマネはそこにサインを求めてきました）、対応窓口の責任感、対応者の認知症への理解（寄り添う力）も高めてほしいです。
・実父が前頭葉型認知症でした。暴言を吐いたり暴力を振るったり暴力的になったので医療機関を受診し薬を処方して貰いましたが、却って脳が冴えてしまい家族の負担や不安が増え、薬の服用を辞めた所、穏やかになりました。人それぞれだとは思いますが、薬も合う合わないがある様に思いました。父の言う事や行動を否定せず、受け止める事で上手く生活出来ました。デイサービスも利用しましたが、こちらも合う合わないがある様で、父には合わず中止しました。介護サービスはベットを借りられ助かりました。父が認知症と診断された際は近所の方に事実を伝えました。大声を出して聞こえる事はあったかと思いますが前もって伝えていたので理解して貰えたのではと思っています。一人で外出してしまった事は有りませんでしたが隣近所の方には暖かく見守って貰えました。介護保険や医療機関は本人に合ったものを選ぶ大切さも必要かと思います。
・高齢化社会が加速度的に進む中、介護サービスの充実が必要である一方、その提供が間に合っていないという印象を受けています。実際、自分の周りにはなかなか介護施設に入所できない方もいらっしゃいます。そちらの充実はお願いしたいのですが、認知症に限らず発症させないという観点も必要だと思います。運動イベントの開催や趣味サークルでの交流促進などをして頂けると幸いです。

・母、父、現在、他界していますが、やはり、病院で、手術や入院を繰り返してから、痴呆が進み、母は、特養で、自由を奪われ、認知のほか、うつ病に近い状態になりました。世間の皆様は、介護者の事を擁護する人が多いですが、老人ホームでは、痴呆老人に対し、虐待は、もはや、大小あれど、日常茶飯事となっています。誤嚥性肺炎で亡くなる人が多いのも、無理に食べさせたりする事も一因です。心の良くない医師が、老衰と決めつけ、治療を放棄する事も、時折り見受けられるようです。私自身は、両親の事もあり、現在の我が国における、老人医療、介護施設には、不信感が拭えないのが、正直な感想です。

【地域での見守り・交流・共生】

・認知症対策や詐欺対策という名目で、高齢者の自由が制限されることのないようにしてほしい。
・自分も含め、誰もがなる可能性があるので、地域で認知症の人を支える、助けることができる活動があれば、ぜひ参加したい。
・サポート養成講座に参加したり、書籍を読んだりするが、身近にいない為、今一つピンとこない。地域の方と関わる中で自然と接する機会があるといいが、具体的にどういうことがあれば、そういう機会になるかわからない。「認知症を勉強する」と構えず、自然と認知症の方と接する場面があると理解が深まる気がする。
・認知症の人が実際に活躍できる場を増やして欲しいです。元気な身体を持ちエネルギッシュでありながら、認知症のために厄介者扱いされ、そのエネルギーを持て余して問題行動に繋がっている人を沢山見ています。
・阿佐谷南にあって来年活動をやめる「ご近所づきあいひろめ隊」。新規隊員が入らず隊員の高齢化によりやめるとのことです。防犯だけでなく地域の繋がりに一役買っていたと思います。隊員の声掛けだけでは人はあまり集まりません。区役所に説明と隊への繋ぎをする窓口を作り60歳又は65歳以上の人に案内をし、区として区全体に広めてはどうでしょうか。ごく一部の人しか参加しないでしょうが、それでも活動によって町の安全や繋がりに貢献し、人と接し活動することで認知症予防や孤独死防止になるのではないでしょうか。
・以前住んでいた地方都市では、認知の方が行方不明になると、防災無線で呼びかけがあり、服装や特徴を住人に伝えることで住人へ発見の協力依頼し、見つかったら再度見つかった旨のアナウンスがありました。杉並区では、認知症で行方不明になった方の区民への周知はどのような対応をされてるのでしょうか？
・かわいそう、やっかいと見る姿勢ではなく、認知症になられる方が刺激を受けられる機会をふんだんに提供していけるという考えで良いと思います。スポーツなど、体に、脳に刺激を与える取り組みをやってあげられたらいいと思う。

・◎認知症の人もそうでない人も、様々な人が一緒に気軽に交流しながら楽しめ、日常的に情報提供や情報共有できる案内所のような場（カフェ風・食堂風・居酒屋風など）があったら、共生社会の実現にもつながるし、様々でたくさんの人が参加しやすくなり、社会的に理解が深まると思います。
◎認知症になってからの就労や社会活動への参加に関する情報が充実したり、身近になっていくと、もっと安心できて今より冷静に生きて行けそうな気がします。
・街で徘徊する人を見つけた時の対応方法、２４時間連絡先の情報が欲しい。
・近くに認知症と思われる人がいて、いつも生垣の周りを掃除してくれたりして、感謝している。他にもたまに道でそのような人がいるが、できるだけそっとしておいている。今のところ、困ったことはない。認知症の人が困っているときにどのように自治体などに繋げばいいかなどのパンフレットなどがあたらほしい。

【認知症施策・行政への要望】
・認知症基本法の新しい認知症観：認知症になってからも住み慣れた地域で仲間と共に､希望を持って自分らしく暮らすことができるという考え方は理想ですが、家族に認知症の人がいると介護以前の段階の見守りからして大変なのに、家族でない地域の仲間と共にという考え方は現実性がないと思います。行政サイドが何を行い、それ以外について何を誰に期待するのかを具体的にしない限り、何も進展しないと考えます。例えば、コスト見合いかもしれませんが、70歳を超えたらポイントと引き換えに認知症オンライン診断の受診を強く推奨して、要注意者は区民検診で脳ドックを受けられるなどの具体化は必要と考えます。
・最近の杉並区政は条例や計画づくりに熱心ですが、具体的な対応・実行や施策の効果的なPRが不足しているのではないかと感じています。
認知症への一般的な理解は進んでいると思いますが、実際には身近な家族・親族・知人が患った際にはじめて自分事として意識する問題だと思います。問題が生じた際にご対応いただくケアマネージャーさんなどの相談先の対応力やサポート体制を向上させる施策が現実的で有効のように思います。
・認知症だけでないが、生涯教育や講座をたくさん杉並区が実施しているように思う。公金が使われているが、それが実際にどの程度の価値があるのか知りたい。地域コミュニケーション、憩いの場にしかなっていないように思ってしまう。高齢者を支えていかざる得ない、若手・子どもの教育に費やしてほしい。
・不安が大きいので行政サービスに期待したいです。
・認知症について身近に考える機会がなく、杉並区の取り組みについても全く知らなかった。行政のほうで認知症になった場合のサポートを充実していただくことが、不安を取り除く一つの解決策になると思うので、充実を図っていただきたい。
・認知症を含め、区の介護政策への予算配分（人員配置）は充分なのか知りたい。

・もの忘れ予防検診の対象が50～70歳に限られ、認知症有病率が急伸する75歳以降が制度の対象外になっています。申込も電話・窓口のみでオンライン化されていません。対象年齢の拡大、スマホでの事前チェック導入、受診率のダッシュボード公開をあわせて検討してほしいです。
・認知症に関するアンケートの問いを見て、認知症に関する自身の知識・認識の不足、対応の重要性をあらためて認識した。高齢化が進む中、区民の生活環境の改善の一環として様々な角度から区の指導的・活動は重要さを増していると感じました。

登録印刷物番号
08-0029(3)

令和８年度第３回
杉並区区政モニターアンケート
集計結果報告書

令和８年11月発行

編集・発行
杉並区総務部区政相談課
〒166-8570
杉並区阿佐谷南1-15-1
TEL03-3312-2111(代表)

杉並区の公式ホームページ

再生紙を使用しています